

Meeting Report



第107回米国癌研究会議(AACR 2016)

AACR Annual Meeting 2016

会期：2016年4月16～20日

会場：Ernest N. Morial Convention Center(ニューオーリンズ)

洪 泰浩

和歌山県立医科大学医学部呼吸器内科・腫瘍内科講師

はじめに

2016年の米国癌研究会議(AACR)はニューオーリンズでの開催であった。前回ニューオーリンズでAACRが開催されたのは10年以上前になり、あのハリケーン・カトリーナが米国南東部を襲撃し、深刻な被害をもたらす前であった。今回ニューオーリンズを訪れて街の様子をみたかぎり、少なくともダウンタウンエリアにおいてはハリケーン・カトリーナによる被害の面影はなく、以前どおりのにぎわいと活気が感じられた。

会場となったErnest N. Morial Convention Center(写真1)は非常に巨大なコンベンションセンターで、ミシシッピ川沿いに11ブロックにわたって建てられており、目的のセッションが行われる場所への移動にはかなりの距離を歩く必要があり、1日の終わりにははくたくたとなった参加者が多かったのではないだろうか。気候的には南部特有の湿度の高さを感じることはなく、非常に過ごしやすい気候であったといえる。

2016年度のAACRでの注目すべきトピックスの1つとしては、ジョー・バイデン米国副大統領が学会最終日に

スピーチを行ったことが挙げられる(写真2)。バラク・オバマ大統領が年頭の一般教書演説にてNational Cancer Moonshot Initiativeの推進を表明したことに加え、バイデン副大統領自身が2015年に長男を脳腫瘍で亡くしていることもあり、今後の研究の推進や治療開発に期待を込めた非常に力強い内容であった。米国においては、創薬および生物学はもちろん、科学技術の分野での知的財産確保はある意味国策であり、それを考えると副大統領が学術集会で講演を行うことも十分理解できるが、日本の状況と比べると羨ましいかぎりである。

以下に本会議で注目されたセッションを中心に簡単にいくつか紹介したい。

免疫チェックポイント関連

2015年に続いてがんの免疫療法については多くのセッションが用意されており、セッションによっては会場内に入りきれないほどの人気であり、近年のがん免疫療法に対する注目の高さを反映していたと思われる。そのなかの1つにPrecision Checkpoint Immunotherapyというセッション



写真1 学会会場となった Ernest N. Morial Convention Center の入り口

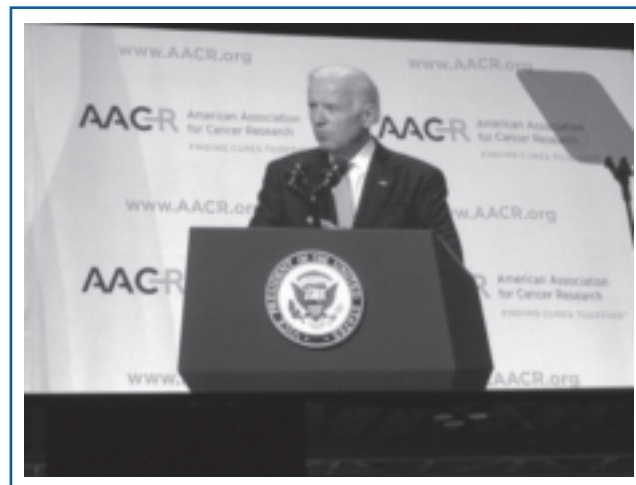


写真2 講演中のジョー・バイデン米国副大統領